

事業目的	大項目	小項目	今年度の取組方針	取組	取組指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己評価	次年度の取組方針	評価審議会の評価	
																		コメント	評価
知識基盤社会をリードする人材の育成	学校独自の取組	Ⅰ. 確かな学力の向上を図る	①・学習習慣 ・学力向上	継続	土曜日午前中の講習実施日および土曜日・長期休業中の自習室開放の設定	①講習実施日 ②自習室開放日	①12日 ②60日	①12日 ②60日	①12日 ②60日	①1年ハイレベル講習ほか、土曜日午前を活用し講習を実施した。 ②土曜日、長期休業中に8:30から16:30まで自習室を開放した。	B	(生徒向け) 学校教育自己診断における「土曜日を学習に活用」の肯定的評価	66.1%	70%以上	71.6%	学校教育自己診断「土曜日を学習に活用」の肯定的評価は71.6%となり、昨年度の66.1%から大きく数値を上昇することができた。	A	継続	B
				継続	課題研究の充実	2年文理課題研究発表会の実施	オール64本、ポスター88本	オール60本、ポスター85本以上	オール56本、ポスター発表105本	9/11に文理課題研究中間発表会を開催。今年度はプロジェクトNovaの生徒を中心に個人の発表が増え、105本のポスター発表を実施。 1/24に最終発表会を開催。	B	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価	66.3%	65%以上	59.3%	SSHアンケート「文理課題研究を通して『知りたい』と言う気持ちが高まった」の肯定的評価は59.3%であり、前年度から大きく値が下がり、目標を達成できなかった。	C	継続	
				継続	グローバルリーダー養成プログラム校内版、海外研修の実施	参加者数	122名	120名以上	96名	グローバルリーダー養成プログラム校内版に27名、イギリス研修には24名が参加。今年度はSSHの取組への参加希望が増えたことで減少。オーストラリア研修には上限の45名が参加。	C	グローバルリーダー養成プログラム校内版受講者へのアンケートにおける肯定的評価	97.3%	95%以上	プログラム満足度100%	プログラム全体への満足度は100%（非常に満足77.7%、満足22.3%）であった。 なお、英語力についての成長実感や自分自身の変容なども95%を超えた。	A	継続	
		Ⅱ. 豊かな感性と、たくましく生きるための健康と体力をはぐくむ	④・共感性 ・協調性 ・健康・体力	継続	①部活動の活性化 ②部活動員を対象とした研修の実施	①クラブ加入率 ②実施回数	①87.9% ②2回	①85%以上 ②2回	①84.5% ②2回	①クラブ加入者数は803名（4月時点）。兼部を含めた人数は増加したが、加入者数は減少。 ②10/15に「折れない心をつくるメンタルの鍛え方」と題した研修を実施。3/2に2回めの部活動員研修を実施予定。	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価	95.6%	90%以上	94.5%	学校教育自己診断「部活動が活発で、生徒は部活動に熱心に参加」の肯定的評価は94.5%であり、前年度からは微減した。	B	継続	A
				継続	①幼稚園、小学校との交流 ②地域の課題をテーマとした課題研究	①実施回数 ②地域の公的機関やNPO等との連携した取組み	①2回 ②2か所	①2回 ②2か所以上	①0回 ②2か所	①これまで幼稚園との交流、小学生対象の子どもクッキングを実施してきたが、今年度は事情により実施不可能となった。 ②岸和田市役所、和歌山大学岸和田サテライトと連携。	C	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②地域の課題をテーマとした研究本数（2年生文理課題研究）	①95% ②7本	①90%以上 ②5本以上	①ー ②6本	①今年度は事情により実施できなかった。 ②地域の課題をテーマとした研究本数は6本であった。	C	再編	
				継続	①全教員による「通学指導週間」の設定 ②生徒による朝の挨拶運動の実施	①実施回数 ②実施回数	①3回 ②10回	①3回（各学期1回） ②10回以上	①3回 ②10回	①各学期1回のペースで3回実施した。 ②今年度、月1回のペースで10回実施した。	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価	85.1%	80%以上	84.4%	学校教育自己診断「社会人としてのモラルを守る態度を育てようとしている」の肯定的評価は84.4%であり、微減した。	B	継続	
		Ⅲ. 高い志をはぐくみ、進路実現をめざす	⑦・将来像の構想 ・興味・関心の高揚	継続	①卒業生による職業講話の実施 ②大学教授等の外部講師による出前講義	①実施回数 ②実施回数	①1回 ②3回	①1回 ②3回以上	①1回 ②3回	①10/18に本校卒業生9名を講師とした「OB・OG講演会」を実施。 ②8/27に大学出張講義、10/23に1年生対象SSH講演会を実施。12/18に理数系部活動生徒を対象とした講演会を実施。	B	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①91.5% ②91.3%	90%以上	①92.5% ②94.0%	①卒業生による「OB・OG講演会」の肯定的評価は92.5%であった。 ②「大学出張講義」の肯定的評価は94.0%であった。	A	継続	B
				継続	①東京方面大学キャンパスツアーの実施 ②SSHサイエンスツアーの実施	①参加生徒数 ②参加生徒数	①5名 ②27名	①5名以上 ②20名以上	①5名 ②27名	①7/31から1泊2日で5名の生徒が東京、早稲田、慶応などの大学を訪問。 ②7/24から1泊2日の「探究スタディツアー」に20名、7/28から2泊3日の「生物フィールドワーク」に7名の生徒が参加。	A	①参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価 ②参加生徒へのアンケートにおける肯定的評価	①100% ②100%	95%以上	①100% ②100%	①②ともに、参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続	
				継続	①「岸高ハイレベル講習」の実施 ②「岸高スーパークラス」の設置	①実施回数 ②生徒数	①12回 ②80名	①12回 ②80名	①12回 ②80名	①80名の募集に対し90名を超える生徒が希望。80名を退出し、8/30から講習開始。国数英各4回実施。 ②文系・理系ともに1クラス40人を募集し、決定した。。	B	①生徒アンケート「受講してよかった」「実力がついた」の肯定的評価 ②生徒アンケート「クラスに入ってよかった」「実力がついた」の肯定的評価	①72.9% ②72.9% ③96.9% ④90.7%	「受講してよかった」80%以上、「実力がついた」85%以上	①87.7% ②83.6% ③95.7% ④92.8%	①②ともに、多くの生徒が肯定的に評価している。特に「岸高ハイレベル講習」の評価は昨年度を大きく上回った。	A	継続	
		Ⅳ. 教員の指導力向上をめざす	⑩1人1台端末の活用	継続	1人1台端末の活用を推進する校内研修等の実施	実施回数	2回	2回以上（オンデマンド・事例集作成を含む）	2回	9/12に1人1台端末を活用した研究授業（物理）および研究協議を実施した。今後、授業実践事例集を作成する予定。	B	(生徒向け) 学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価	93.8%	90%以上	94.6%	学校教育自己診断「1人1台端末を活用している」の肯定的評価は94.6%であり、前年度からさらに値が上昇した。	A	継続	A
				継続	①研究授業を含めた授業力向上研修の実施 ②公開授業週間の設定	①実施回数 ②実施期間	①1回 ②各教科3週間×2回	①1回 ②各教科3週間以上	①1回 ②各教科3週間×2回	①11/21に府教育センター指導主事を指導・助言者として招き、授業力向上研修を実施した。 ②全教科を対象とした公開授業週間を8/26からの3週間、11/5からの3週間に設定。	B	授業アンケートの項目8「授業に興味・関心を持つことができた」、項目9「知識や技能が身についた」の肯定的評価	3.33	3.25以上	3.38	授業アンケートの項目8・9の肯定的評価の全教員平均は3.38となり、昨年度の数値を大きく上回った。	A	継続	
				継続	初任者と10年経験者の教員合同での校内研修の実施	実施回数	11回	11回以上	11回	校長、教頭、事務長、養護教諭等からの講話のほか、初任者と10年経験者との交流を図る取組みなど、全11回の研修を実施した。	B	参加教員へのアンケート「本研修で知識は広がりましたか」の肯定的評価	100%	100%	100%	参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続	
		Ⅴ. 取組みの成果を他校・地域へ発信・普及する	⑬GLHS校以外の生徒の資質向上	継続	①課題研究発表会への他校生徒の参加 ②その他、他校との交流を実施	①課題研究発表会に参加した他校の生徒数 ②その他、他校との交流回数	①高校2校6名、小学生5名、中学生2名 ②2回	①10名 ②2回	①多数 ②複数回	①9/11の課題研究中間発表会で府立和泉高校の生徒による16本のポスター発表を実施。1/24の最終発表会には、他校招待生徒に加え、小学生5本、中学生4本の発表を行った。 ②和泉高校における探究活動実施に対して、協働した取組を実施。	A	①参加生徒へのアンケート「参加してよかった」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的に評価している。	B	継続	A
				継続	教員研修等の実施	教員研修等への参加学校数及び教員数	2校5名	4校8名以上	1校多数	これまでの「総合的な探究の時間」意見交換会の実施を踏まえ、今年度から本格的に府立和泉高校との連携を開始。両校の時間割を揃え、教員・生徒とともに頻繁に交流を行っている。	B	参加教員へのアンケート「内容は満足いくものでしたか」の肯定的評価	100%	95%以上	100%	参加者全員が肯定的な評価であった。	B	再編	

府立岸和田高等学校

事業 目的	大項目		小項目	成果指標	前年度実績	目標値	実績	実績の詳細	自己 評価	次年度の 取組方針	評価審議会の評価			
											コメント	評価		
知識 基盤 社会を リード する人 材の育 成	共通 の取 組	Ⅵ. 総合的な学力の測定	⑮10校が共通で実施する学力調査	学力調査の結果	評価審議会資料3に明記							学力調査における学力の伸長に関して、昨年度、1年から2年が大きく落ち込んだところから、令和6年度並みに戻している。2年から3年の経年推移の改善とあわせて、今後、より期待できる。 大学共通テストについては、6教科8科目の受験者は目標を大きく下回ったものの、全国平均×1.2以上の割合は昨年度並みを維持していると言え、評価できる。	B	
			⑯大学入学共通テストへの参加	大学入学共通テスト 6教科8科目受験者の割合	225名 71.0%	240名 75%以上	215名 68.9%	6教科8科目受験者は文系85名、理系130名、合計215名であり、目標値を大きく下回った。	C	継続				
			⑰大学入学共通テストの結果	大学入学共通テスト5教科7科目の 全国平均×1.2以上得点した受験者の割合	文系 33.7% 理系 21.6%	30%以上	文系 33.0% 理系 19.4%	文系は全国平均595点の1.2倍714点以上の生徒は28名/85名で33.0%。 理系は全国平均605点の1.2倍726点以上の生徒は25名/129名で19.4%。	C	継続				
		Ⅶ. 課題研究活動	⑱課題研究活動	学校教育自己診断「岸和田高校は、課題研究をはじめとする探究的な学習や、関連行事など特色ある教育活動が行われている。」の肯定的評価	95.5%	93%以上	95.0%	肯定的評価は95.0%であり、昨年度より微減したが、目標値を上回った。	A	継続	課題研究活動に対する肯定的意見が95%あることは大いに評価でき、探究活動をはじめとした教育活動が根付いていることがうかがえる。一方で、コンクール・コンテスト等の成果につながらなかった要因を分析し、生徒が存分に力を発揮できるようサポートいただきたい。	AA		
			⑲コンクール・コンテスト等の成果	コンクール・コンテスト等（国際科学技術コンテスト、SSH生徒研究発表会、高校生国際シンポジウム、大阪府学生科学賞、大阪府生徒研究発表会等）の参加者人数	のべ85名	75名以上	のべ69名	・国際科学技術コンテスト10名 ・SSH生徒研究発表会1名 ・大阪府学生科学賞4テーマ12名 ・大阪府生徒研究発表会1部14名 ・坊っちゃん論文科学賞4名 ほか	C	継続				
		Ⅷ. 英語運用能力	⑳英語運用能力	3年生のうちCEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数	3名	5名以上	4名	C1：1名、B2：3名	B		CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する生徒数は昨年度よりも増加している。英語運用能力を高める取組みをさらに推進してもらいたい。	—		
		Ⅸ. 進学実績	㉑スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学	スーパーグローバル大学（タイプAトップ型）およびグローバルサイエンスキャンパスへの進学者数（1浪含む）	28名	30名以上	22名	東北大学1名、大阪大学11名、神戸大学8名、早稲田大学1名、慶応義塾大学1名	C		進学実績について、目標には及ばなかったものの、十分に評価できる値である。ただ、自己評価は「C」としており、次年度、実績につなげられるよう、要因の分析を行い、飛躍に努めていただきたい。	A		
			㉒進学実績	国公立大学&主要私大（早稲田・慶応・上智・東京理科大・MARCH・関関同立・同女・薬学部・歯学部・医学部）現役進学者数	224名	220名以上	215名	下記の国公立大学に加え、私立大学では早稲田大1名、慶応義塾大1名、同志社大8名、立命館大5名、関西大44名、関西学院8名など	C					
			㉓国公立大学への進学	国公立大学現役進学者数	139名	135名以上	128名	大阪大7名、神戸大6名、大阪教育大15名、奈良女子大1名、和歌山大44名、大阪公立大34名、和歌山県立医大3名など	C					
			㉔海外大学への進学	海外大学進学者数（1浪含む）	1名	1名以上	0名		C					
		総合評価				縦割り型課題研究、スーパークラス、ハイレベル講習など特色ある取組みは、GL校のみならず様々な学校でも参考になる独自の取組みであり評価できる。また、学校生活への満足度が大きく改善しており、生徒が安心して学習できる環境が整っている。今後、これまでの特色ある取組みを活かしつつ、入学時の学力層の変化に対応する次の一手を期待したい。								A